

公園内で見られる植物

写真は10月20日(日)
自然観察会で見られた
植物です



カラスザンショウ (ミカン科)

幹や枝に棘が多いので、タラノキになぞられた地方名(コメダラ・イヌダラ)も多く、木や葉や実が大きいのでカラスが付いた名もあります。カラスが実を好むので付いたという説もあります。紫色の実を食べようとは思いませんが、なかなかきれいですよね。中に黒い種子が入っていて、鳥は好物の実らしく、ツグミやメジロが良くついばんでいます。辛くないのかな？



アキチョウジ (シソ科)

山地の木陰に生える多年草。葉は対生で柄があり、まばらに毛があって先端は鋭くとがっています。花は青紫色で唇形をしています。由来は秋に丁字形の花を付ける事からきています。



アキノキリンソウ (キク科)

別名アワダチソウ。北海道から九州まで幅広く生息しています。日当たりの良い山野に生える多年草で、秋に咲く黄金色の花の代表です。嫌われ者のセイタカアワダチソウと同じ科属ですが、種で増えるためか繁殖力はさほど強くないようです。



キツネノマゴ (キツネノマゴ科)

道端にもよく生えている雑草で、やや湿った所を好むようです。なぜキツネの名が付いているのでしょうか？花序には花が密に付きます。花が終わったらキツネの尾っぽに見えなくもないですが？同種でキツネノヒマゴ、キツネノメマゴの名の付いたものもあります。



ミゾソバ (タデ科)

別名「牛の額」と言われるのは葉の形が牛の顔を思わせるからのようです。やや湿った所を好みます。茎には下向きの刺があります。集まって咲いているときれいですが、1年草といえども雑草ですから退治しようと思うとなかなか厄介です。これが蕎麦の実のように食べられるのであれば……



コウヤボウキ (キク科)

コウヤボウキの特徴として葉の付き方が2通りあり、本年枝には卵型の葉が互生して付き、2年枝には細長い葉が3～5枚束になって付きます。本年枝の先に白い筒状花が10数個集まっています。名前の由来は、高野山で枝をホウキの材料にした事から付きました。



ヤマハギ (マメ科)

花が基部の葉より出ていますね。萩は秋の七草の一つです。ただ単に、「ハギ」という名の植物は無く、全てハギの前に名前が付いています。万葉の時代から日本人に親しまれている植物です。

参考：秋の七草 (はぎ・すすき・くず・なでしこ・おみなえし・ふじばかま・ききょう)



ベニタケの仲間 (ベニタケ科)

色を見て食べたいとは思えませんね。殆どのキノコは食べられないと思った方が良く私は思っているのですが、試そうとは思いませんが、何か食べたようです。人間には毒でも虫は大丈夫なのですね。



マンネンタケ (マンネンタケ科)

広葉樹の根株から出ます。傘はじん臓形。傘の下面を除いて全面が整然たる柵状組織型で硬い殻皮におおわれ、表面にはニス上の分泌物を生じ、光沢がある。肉はコルク質で白っぽいですが、下半部は淡いにつけい色をしています。



ウラベニホテイシメジ (イッポンシメジ科)

傘の表面が灰褐色だが、白色絹状繊維に薄く覆われ、のちに細かいかすり模様となります。大型でボリューム感がありますが、全体的に苦味があるので、一度茹でこぼしてから油いためや煮物等味を付けて食べられます。エリンギほどではないですが歯切れが良いですよ。



カラカサタケ (ハラタケ科)

傘の大きさが8～20cmにもなる大きな茸です。傘をにぎってパッと放すと原形にもどるので、ニギリタケとも呼ばれています。傘の肉は柔らかく、柄は硬く筋っぽいようで、味に癖はないそうです。フリッターやフライにして食べられるキノコのようなのですが私は食べた事がありません。生食では禁物だそうなので、試してみたい方は気を付けてください。